環境配慮素材のパッケージのことなら
梅田真空包装株式会社
本　社：〒577-0032 大阪府東大阪市御厨3丁目9-28 TEL.06(6782)0661
関東工場：〒355-0071 埼玉県東松山市大字新郷568-1 TEL.0493(81)3713

CHALLENGE 70
発行所 日報ビジネス株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5 電話03(3262)3463 FAX03(5276)4431
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11 電話06(6262)2402 FAX06(6265)7127
発売元 株式会社クリエイト日報 出版部

1月1日・6日 No.3153
2025年(令和7年)
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
昭和41年9月22日 第3種郵便物承認
購読料(定価) 年間 23,900円＋税
1部本体 509円＋税

（第3種郵便物承認）

包装タイムス
THE HOSO TIMES

Doctor Hi-Blade®
FS
FUJI SHOKO CO., LTD
富士商興株式会社

2025新春特別号 第1号 PART1

新時代を切り拓く包装企業の挑戦

深刻化する人手不足問題の解消に向けた新しい自動化システムの提案・開発をはじめ、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現といった世界共通の課題解決に向け日々挑戦を続けている日本の包装産業。AIロボットやデジタル技術の活用など包装ラインの自動化をサポートする新しいソリューション提案の動き、さらには脱プラ・減プラ等を訴求した新素材や新技術の開発など世界共通の課題解決に向けた包装企業の取り組みはここにきて一段と活発だ。そこで今年の新春特別号では「新時代を切り拓く包装企業の挑戦」をテーマに、パッケージを取り巻く現況や課題、そして新たなイノベーションで商機獲得・需要創出に挑戦する企業にスポットを当て2025年の業界展望を探る。

出荷量と省力化に注目

軟包装

2025年の軟包装業界を展望すると、フィルムメーカーでは出荷量増および維持、加工現場では、加速する省力化の動向に注目だ。日本ポリプロピレンフィルム工業会の出荷実績によると、24年のOPPは対前年比で105%前後で推移される見込みだ。CPPは同100%で推移。しかしながら食品用途に限ると、OPPは月別で平均1万5千トンを割る事態だ。25年もモノが動かないと予測される中で、いかに出荷量を維持していくかがカギとなりそうだ。一方の加工サイドでは、昨年から活発化してきた省力化・省人化対策への動きが顕在化してきている。進まない人材確保により、自動化やロボットの導入を検討する企業は増えるだろう。

変化の時代に対応求められる

容器・シート

長引く物価高による影響で、消費者の間に節約意識が根付いている。原材料費の高騰が業界全体に重くのしかかる中、昨年までに一定の決着を見たようだ。環境問題を念頭に置いた包装削減への動きも散見されるが、一方でプラスチック包装の機能性が見直され始め、環境に配慮した包装の一般認知度も徐々に広がってきている。消費者の低コスト志向は、比較的価格を抑えやすいプラスチック素材製品への追い風になる可能性もある。他方で、国際的なプラスチック規制の進展も見逃せない。容器包装の有用性と持続可能性を、業界として広く社会に訴えていく必要があるだろう。進行する人手不足問題への対策も急務で、これら課題に容器業界がどのような解決策を打ち出すのか注目されるところだ。

人手不足解消に自動化ニーズ一段と

包装機・関連機器

自動化・省人化そして海外展開などをキーワードに堅調な需要トレンドが続く包装関連機器市場。国内では、目下最大級の課題となっている人手不足問題の解消など工場現場の生産性向上が一段と求められる今日、包装ラインの自動化をサポートするシステム需要は2025年も堅調なトレンドが予想される。とりわけ主要ユーザーとなる国内三品業界では、人手不足に加えて膨張するインバウンド需要なども今日の省力化投資の拡大機運を後押しする。また海外、とりわけアジアの成長市場では省力化機運の一段の高揚とともに日本の高度な技術力やきめ細かい日本的サービスが現地の市場ニーズを着実に掴んでいる。コロナ渦からの脱却が進みグローバル展開を再加速させている装置サプライヤー各社の動向に今年も注目だ。

環境配慮の引き合い本格化へ

外装資材・機器

これまでコスト重視と言われてきた外装分野でも、環境に配慮した製品への引き合いがいよいよ本格化しつつあるようだ。省資源、素材の変更、循環システムへの参加など、ユーザー各社の環境配慮の方向性はさまざまだが、これまで使っていた資材や機器から環境配慮製品に切り替えるにあたって、機能や利便性が保てることは引き続き重視されており、今年もメーカー各社の提案に期待したい。一方で昨年は、物価高騰が続いたことなどが出荷数量に影響した企業は多かった。環境配慮型製品や省人・省力化提案への関心は高まっていても、世界情勢は依然不安定なまま。需要拡大は徐々に進むも関心が高まる今こそ変化と伸長をとにかく面化しつつある。世界情勢の悪化や災害、システム障害などによる物流の停滞もあり、期待されたほどの伸びを見せなかった分野もあった一方、一般消費者を中心に物流に対するパレット辺の資化シフトなど現の手削減にとも期はワイめとキデジに、フ行しいよいレキソる企業うにベル業印刷のうだ。

関心高まる今こそ変化と伸長を

物流

昨年4月に、働き方改革関連法に基づくトラックドライバーの残業規制が開始した。これにより、物流・運送業界に発生するであろう問題の数々が「2024年問題」と呼ばれてきたわけだが、危惧されていたそれらが表

フレキソ印刷の導入進む!?

シール・ラベル印刷

シール・ラベル業界がここ数年、直面している大きな課題の一つが「技術継承」だ。主流の平圧凸版印刷は、高度な技術を要することから、習得に数年の経験が必要とされてきた。そんな中、デジタルネイティブ世代と呼ばれる新入社員が増える現代において、注目を集めているのがフレキソ印刷機である。業界関係者によれば、フレキソ印刷機は1年足らずで操作を習得でき、本格的な生産にも対応可能だという。国内のラベル印刷機メーカー各社もフレキソ印刷機の開発において積極的に競争を繰り広げている。実際、欧州で

「紙化」だけでない付加価値を

紙器・段ボール

紙器・段ボール業界にとって、最近の環境配慮に伴うパッケージの「紙化」は追い風で、紙の弱点を克服するコーティング剤なども開発されている。一方、昨年の白板紙や段ボールの生産量は、前年並みを確保できるか否かという状況だ。背景には、通販で使用される宅配箱の一部を袋に替える動きや、物価上昇による消費者の購買力低下があり、観光・インバウンド需要もそれをカバーするには至っていないようだ。製造現場の人手不足も深刻化する中、やはり「量

設計・制作

Pパック
西
す13す・本